

総合計画／実施計画書 兼 事業評価シート

事業期間 H20 ～ H22

担当部局	部局名	産業経済部
	課室名	農業振興課

1. 基本施策名等（基本計画における「基本施策名」等を記入）		
基本施策 I D	基本 施 策 名	
4 - 1 - 1	消費者ニーズに対応した農林産物を創出する	
重点施策 I D	重 点 施 策 名	
- - -		

2. 事業名等										
事業名		全国和牛能力共進会出品対策補助事業			事業区分		② ①新規 ②継続 ③その他 ()			
細事業名					実施形態		① ①毎年 ②隔年 ③その他 ()			
事業主体		市					④ ①直営 ②指定管理 ③委託			
事業種別		① ①自治事務 ②法定受託事務					④その他 (団体補助)			
実施期間		平成 18 年度 ~ 平成 22 年度		根拠法規		豊後大野市畜産振興補助金交付要綱				
各種の計画への反映 (=根拠計画)				豊後大野市農業振興計画				事業 I D		18009

3. 事業の内容等			
事業の背景 県は基より全国に豊後大野牛の名声を高める上で、最適な場であるので、出品に向け努力する。		補助事業	名 称
			補助率
			国 県 その他 1/ 1/ 1/
事業の目的及び対象 【目的】 全国和牛能力共進会の出品に向けた出品候補牛の造成及び豊後大野牛の銘柄確立を図り、肉用牛経営の安定化を目的とする。 (5年毎の開催) 【対象】 肉用牛繁殖経営者		起 債 の 種 類	①
			②
			③
事業概要 【18年度】協議会の運営費 936千円 【19年度】協議会の運営費 2,043千円、導入補助 92千円（2頭分）：市内産の若雌牛で購入価格が500千円を越えた額の1/2を補助（ただし、上限を500千円とする。） 【20～21年度】協議会の運営費 100千円以内		前年度の評価	
		評価結果に基づき見直した内容	
		E	
		維持	

4. 予算・決算の状況								(単位：千円)
財源内訳		H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23～
予 算	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源		936	2,135	100	100	1,000	
	計		936	2,135	100	100	1,000	
決 算	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源		936	2,135				
	計		936	2,135				

5. 実績及び達成目標等															
過去3年間の事業実績と課題															
平成17年度			平成18年度			平成19年度				課 題					
			【実績】 対策会議 6回 巡回 23回 引出検査 2回			【実績】 導入頭数 2頭 出品頭数 1頭				候補牛及び母体の選考や雌牛系統の掘り起こし等を長期計画で実施する必要がある。					
達成目標と前年度までの進捗状況……事業成果の目標となる指標と目標数値															
活動指標		協議会、出品者への補助額													
効率指標		前年度決算額＞当該年度決算額 ⇒ 平成21年度は、コスト評価（経済性、効率性、効果性）を実施する。													
成果指標		出品頭数										単 位			
												頭			
年 度		H 17		H 18		H 19		H 20		H 21		H 22		備 考	
種 別						出品頭数									
目標値						1		-		-		-			
実績値						1									
達成率						100.0%									
備 考															

総合計画／実施計画書 兼業務事業評価シート

評価対象年度 H19 年度

評価実施年度 H20 年度

担当部局	部局名	産業経済部
	課室名	農業振興課

6. 前年度の事業評価				評価に関する視点	
事業の 必要性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	3	時代や市民ニーズの変化への対応、事業目的の緊急性、重要性、さらには他の自治体の動向等を踏まえて評価する。	
理由	基幹産業である肉用牛の振興を図るには、豊後大野牛の銘柄確立と生産意欲の向上及び優良雌牛群の生産基盤の構築が必要であるため。				
行政の 関与	1 2 3 4 5 不要 ← → 必要	評価	4	この事業は行政が実施しなければならない事業なのか、民間でサービスを提供できないのか等、民間との役割分担を考慮して評価する。	
理由	民間による補助が行われておらず、行政が実施主体となる必要がある。				
手段の 妥当性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	4	行政がこの事業を行うこととした場合、事業実施の方法は妥当か、効率的な方法なのか等、外部委託や受益者負担等を含めて評価する。	
理由	全国和牛能力共進会の出品対策に係る経費の一部を行政が補助する方法以外に代替手段が見当たらないため。				
事業の 効果	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	5	事業の効果は上がっているのか、事業は効率的に実施できたのか、事業経費は事業実績と比べてどうか等、費用対効果も含めて評価する。	
理由	全国和牛能力共進会の出品対策にきわめて高い効果があるため。				
事業の 予算	1 2 3 4 5 減額 ← → 増額	評価	3	全ての行政経費の削減が求められる中で、予算を減額できないか、できないのであればその理由はなぜか等、事業経費の面について評価する。	
理由	平成20年度から平成21年度までは協議会負担金のみであるため事業費補助が縮小するが、平成22年度以降は平成19年度と同程度の予算が必要である。				
人 体 員 制	1 2 3 4 5 減員 ← → 増員	評価	3	事業経費と同様、職員全体を削減せざるを得ない状況の中で、組織の見直し、グループ制の活用、外部委託等の様々な手法を含めて評価する。	
理由	兼任業務であり、現状の人員以上の削減が困難なため。				
事業 規模	A B C D E F 廃止 終了 統合 縮小 維持 拡大	評価	E	今後の事業規模の方向性について、事業の必要性、緊急性、事業経費や担当職員数の増減等を検討し、社会情勢や市民生活への影響等も十分考慮した上で、事業全体としてどのような方向へ進めていくのかを総合的に判断する。	
理由	肉用牛振興に寄与しており、現状維持が望ましいため。				
その他、特記事項		事業の内容や事業規模に関する意見、補足説明、事業改善の方向性等、特記すべき事項を記載する。			
次回開催までに、協議会と事業内容の見直しを検討する。					
部 長		課 長		班 長	
				担当者	
				内線 2550 E-mail @bungo-ohno. jp	